

# 聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール  
聖母の小さな学校  
2020年  
5月21日発行  
臨時号

## 聖母も活動の再開です！

青葉若葉の美しい頃となりました。平素は聖母の小さな学校の教育にご理解・ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。全国 39 県で緊急事態宣言が解除されましたが、各人の新型コロナウイルス感染防止の対応はまだまだ緩めるわけにはいきません。ゆるやかに回復へと向かう中、舞鶴市教育委員会は市内の小中学校を 5 月 20 日に再開します。それに準じて、本校も 5 月 21 日より再開いたします。

本校は、なかなか外に出られない、外には出られるが学校には行けない「引きこもり傾向」の不登校の子どもたちが在籍しています。従って、3 月 2 日の国の休校要請後も週 2 日、また 5 月に入ってから 2～3 日の個別登校日を設け、その都度、「毎日の生活記録」やその他の宿題を確認してきました。それは、休業前によく回復しかけた昼夜逆転の生活に戻るのを防ぎ、生活のリズムを作り、継続することを目指したものでした。

「朝起きる→食事をする→家の手伝いをする→宿題をする→寝る」という 1 日を、「生活記録」として自分で記録し、可視化したことは、生徒自身にも良かったようです。生徒の記録の中に「もっと早く起きよう」とか「母と〇〇を作った」など、意欲や喜びが見えました。今の自分を丁寧に見る機会を持つと、誰でも「どうせ自分なんか…」とか、「どうなっても構わない」というような投げやりな思いは沸いてきません。「今の自分を見る」ということは、「今、関わる人に支えられている」ということを感じるからです。子どもを一人にせず、関わり続けることの大切さを思いました。

学校は、社会に開かれた良い生活習慣を作る装置です。そして、不登校の子どもたちにとって、自分の現実を受け止め、共感を示してくれる本校は、目に見えないけれど、自分が良い方向に向かって歩んでいける、人間として、「良さ」に向かう場であると感じたようです。それも、今回の「必然的な休業」という、ゆっくりした時間とプログラムに恵まれたからと言えるかも知れません。いずれにしても、不登校の子どもにとって本校は、社会に開かれた良い生活習慣を作る、また、人間として「良さ」へ向かうことを可能にする、人へ、社会へ橋を架ける力を身につける、現代社会の中の装置です。こうして再開できることをうれしく思います。教育委員会、原籍校と連携しながら、生徒一人ひとりの成長を図るよう、努めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【今後の活動】

日	曜日	学習活動及び行事	日	曜日	学習活動及び行事
21	木	数学（江宮先生）	28	木	理科
22	金	ギター教室（北浦先生）	29	金	英語 月例保護者会 19:30～
23	土		30	土	面談日
24	日		31	日	
25	月	休校	6/1	月	国語
26	火	社会（歴史）	2	火	社会（地理）
27	水	体育（渡邊先生）	3	水	体育